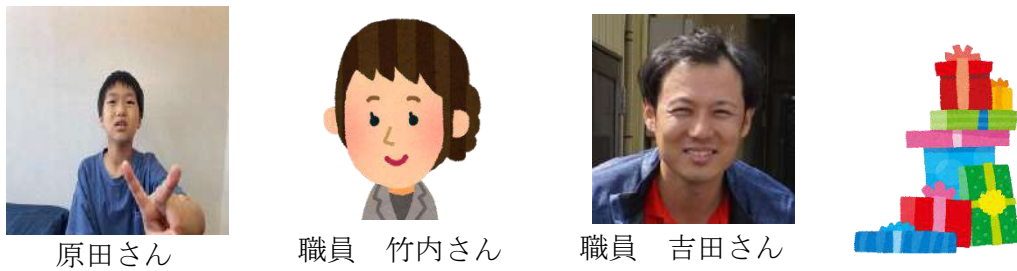


# HAPPY BIRTHDAY

高橋さん 花野井さん 中村さん 職員 志賀さん 諸橋さん



## 6月生まれ



原田さん 職員 竹内さん 職員 吉田さん



飯島さん Aさん Kさん 小野さん



影山さん 職員 長瀬さん

## 7月生まれ

<つくばね会 広報委員より>

令和5年度に新規広報委員の活動が始まり前半が過ぎようとしています。小規模作業所時代から引き継いできた「つくばね通信」をより良いものとするべく話し合いを重ね記事の見直しを行ってきました。今年度からは、①事業所の取り組みが分かる記事、②職員が取り組んでいることが分かる記事、③時事の福祉に関する記事、④利用者の様子が分かる記事、に絞り掲載していく事としました。「つくばね通信」を読んで、つくばね会の魅力を感じていただければ嬉しいです。また、読者の皆様からのご意見が頂けると幸いです。今後も「つくばね通信」を発信源とし、つくばね会の様々な取り組みをお知らせしていきたいと思ひます。 (広報委員長 栗原千鶴)

1994年8月24日 第三郵便物承認  
2023年8月8日発行（毎月12回2・4・6・8の日） 通巻第5375号  
川口市元郷1の10の13 頒価 50円  
郵便振替 00100081411223  
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会

～ そよ風のように街に出よう～

S S T L

# つくばね通信



社会福祉法人つくばね会

代表 千葉県我孫子市都部新田37-2

TEL 04-7187-1944

FAX 04-7187-1947

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか

おおぼん・ふれんず

4月から楓で居宅介護を始動して、5ヶ月が経ちました。居宅介護とは、介護が必要な方の自宅に訪問し日常生活の支援をするサービスです。支援の内容は食事や入浴、排泄の身体介護や、調理・洗濯・掃除等の家事援助、生活等に関する相談及び助言、病院への付添いなどです。

私は、通所事業所での経験しかありませんでしたが、居宅支援を通じて、障害がある方が、ちょっとした支援があることで、地域の中で暮らしていける事を実感しております。例えば、「買い物にヘルパーと一緒に掛けて、自分で好きな物を買う」「自分一人では難しかった掃除をヘルパーと一緒にやる」「家族や一人で行っていた通院にヘルパーと行く」など、私自身も利用者の皆さんと新たな経験をさせて頂いています。

その中、先日、同行援護従業者研修に参加しました。同行援護は視覚障害等がある方の外出時に支援を行う者が同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護、その他外出する際に必要な援助を行います。研修ではアイマスクをして移動、食事をする体験をしました。移動ではアイマスクをして500mほど歩いたのですが急な段差につまずいたり、足がすくんでしまう事も…食事ではこぼしてしまったり、味が感じにくい気がしました。少し見えなくなるだけで、普段の何気ない行動が全くできませんでした。日々の生活でそれだけ視覚に頼って生きている事、視覚障害者の方は、元々の景色が理解出来ている以上に恐怖を感じていることを知りました。どんな事においても、日々の生活の中で自分が知らない世界があつて、理解をすること、知ることを大切にしていきたいと思ひました。研修で学んだ事を生かして、これからも利用者や家族の皆さんと一緒に色々なことに挑戦していきたいと思ひます。

( 楓 青木)





## 「待つ支援」について考える

7月7日(金)に我孫子市こども発達センター主催の「一斉指示を聞く力、自己管理の力の基礎」をテーマとしたすくすく学習会にオンラインにて参加致しました。

“一斉指示”とは、集団生活の中で先生が子供たち全員に同時に伝える指示のことを指示のことを指し、“自己管理”とは自分自身の生活や行動を律して、健康維持や学力向上を行えるようにすることを指します。どちらも集団生活の場では欠かせない事です。しかし中には苦手な方も居ると思います。大人でも他に集中していることがあったり、何か考え事をしていると上手く頭に話が入ってこなかったり、忘れ物をする事もあります。同様に子どもたちの中にも感覚過敏で大きい音が苦手だったり、他の物に注意がいき場面や気持ちの切り替えが苦手な子等子ども側なりの理由があります。その為、子ども一人一人を知る事が大事であり一日の状態確認(体調面、睡眠時間、食欲等)をする事で何かヒントが見つかるかもしれません。子どもが指示を聞ける為に、自己管理が出来る力を身につけられるようになる為には、まずは支援者側が意識することが大切であると学びました。何を意識したら良いのか？それは支援者側が「待つ支援」をする事です。例えば片付けや準備、遊びの中で中々気持ち(場面)の切り替えが難しい時や上手く伝えたい事が伝わらない時に、“今すぐ”は難しい事なので「あと5分だよ」「あと何回だよ」等こまめに予告を伝えてあげる事や子どもが考えた遊びや行動をどんなことをするのか見守る事(危険がある可能性の時のみ止める)、少し時間の猶予を作ってあげる事、手本を見せたり部分的に補助をする事等を日々の支援の中で意識していく事で「待つ支援」に繋がります。私は今年で4年目になります。「待つ支援」を提供する為には支援者側にも気持ちの余裕がないと中々出来ない事だなと感じました。まだまだ経験・知識不足の所もあり日常の支援の中で上手いくこともあれば、支援方法に対して悩む時もあります。どこまで私たち支援者が一人一人を理解しそれぞれにあった支援方法を見出していけるか、「待つ支援」を意識し子ども達の成長をお手伝いしていきたいと思っています。(ふれんず 松崎)



## 福祉を目指したきっかけ



私が福祉を目指したきっかけは父方の祖父の存在でした。祖父は無口なタイプでしたがとても優しく、尊敬する大好きな祖父でした。

その祖父が体調を崩し入院してしばらく経った頃、父だけで祖父の面会に行った際に病院から「認知症症状が少しずつ出てきている」と話があり症状を聞くと「徘徊」が主だと父から認知症の話が聞かされた時「まさか」と思いました。そんなある日、家族みんなで祖父の面会に行った時の事、病室に入ると祖父が寝ているベットの周り全てに柵がさしてあり右手首には布が巻かれ、柵の一部と繋がれている祖父の姿がありました。面会に来た私達家族に看護師から、徘徊を防ぐため家族の了承を得る前にやむを得ずこのような対応をとらせてもらったと説明をうける父の傍らで話を聞きながら祖父のその姿を見て、怒りと悲しみの気持ちが当時小学校5年生ながらに沸いた事を今でも鮮明に覚えています。

そしてこの事をきっかけに、自ら福祉に関わり自分がしたような悲しい思いをなくしたいと福祉の道へ進む事を決め、地元福島県では珍しい総合学科の高校で福祉科を選択。介護福祉士の国家試験に無事受かる事ができ、介護福祉士の勉強をしているうちに「介護」だけでなく「社会福祉」に興味を持ち専門学校へ進学後、ご縁あってつくばね会に入社となりました。つくばね会に勤め13年目、けやき社会センター、ふれんずそして今おおぼんと成人から児童まで関わった経験を活かし、おおぼんへ通う利用者の皆が楽しく仕事が出来て過ごせる環境作りや支援が行えるよう努めていきたいと思っています。

## 「はるか」開所式

令和5年7月20日木曜日 晴天の空の下「はるか」の開所式をさせていただきました。35名のお客様に、遠くは千葉市内から足を運んでいただきました。

温かいお祝いのお言葉やお花等を沢山頂き、開所式に花を添えていただきました。はるかの歴史を紐解くと1997年に「ゆうゆう福祉作業所」が開所、2003年4月に「つくばね共同作業所」から「はるか共同作業所」に名称変更、2009年につくばね会の傘下に入りました。

今回の移転まで、賃貸の物件での事業所でしたが建物の老朽化に伴い引っ越し委員会を立ち上げました。どこかに利用者の皆様が、のびのびと過ごせる、よいところはないだろうか。皆が走り回る中、職員がHPで見つけた物件が、今回購入の運びとなりました。たくさんの方々のご尽力と地域の方々の温かいご理解を頂き、新木駅徒歩3分という素晴らしい立地に、3階建ての物件を購入することができました。この10ヵ月間、工事業者を探したり、融資をお願いしたり、人生初めての体験の日々でした。

4月1日からは、駐車場の整備にとりかかり、竹藪の開墾と整地には2ヵ月職員が平日夕方利用者を見送った後、また、休日出勤をして行いました。6月下旬には、1階2階の作業室と職員室のペンキ塗りをしました。(4度塗りした部屋も..)床や壁の色も職員が利用者の皆様を思い描きながら決め文字通り手作りのオリジナルティあふれる施設になりました。開所式後の施設案内では、お客様に「素敵ですね」「想像とだいぶ違っていました」と声を掛けていただき、笑顔がこぼれていました。

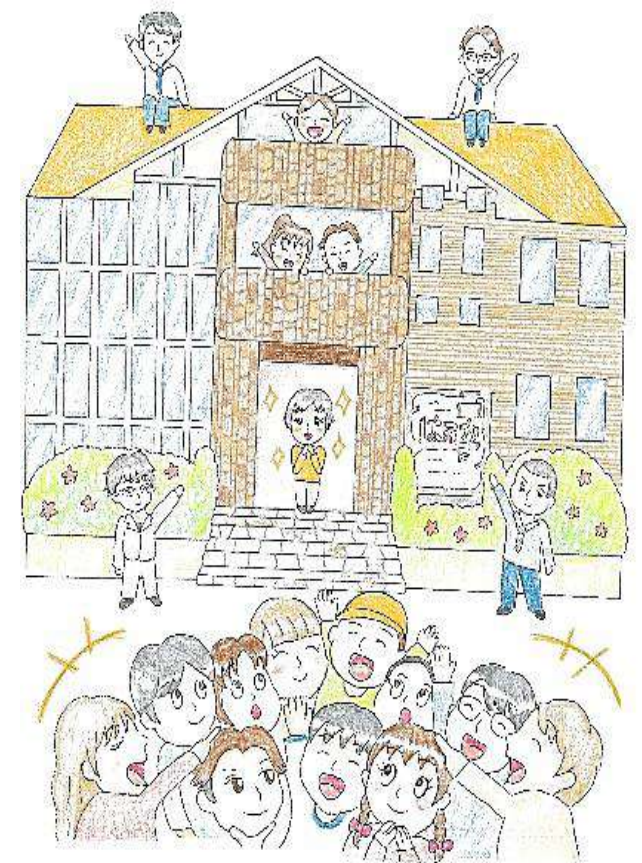
開所式は一つの節目です。地域の皆様に新はるかのお披露目の大切な日でもありましたが、職員一人一人が決意を新たにすることもありました。

開所式後、利用者の皆様がいただいたスイカを玄関の石畳の上で嬉しそうにかぶり付く姿を見て、私の決意も新たになりました。夕方の職員の振り返りの時間で、「はるかに来てからこんな日がこんなに早く来るとは思わなかった。自分も少しは役に立てたのかな..」という謙虚な発言を聞いて、そんな思いのあなたたちがいたから、利用者の皆様は「明日もはるかに来たい」と思ってくれるのだと思うよ。と心の中でつぶやきました。

利用者支援といいますが、誰かのためにチームで頑張ることで、こんな幸せな時間を分かち合えるなんて、想像もしていませんでした。

今日の感謝の気持ちを大切に、皆様から戴いた優しさを利用者の皆様に返していきたいと思っています。

(はるか 管理者 三代 晃子)





## 65歳問題について考える



「障害者の65歳問題」と言われるようになってしばらく経ちますが、ご存じでしょうか？

障害福祉サービスを利用中の方が65歳を迎えると障害福祉サービスから介護保険サービスへの変更を要請される、同じ福祉のサービスですが本来の制度の目的が違う為におこる制度上の不具合です。原則1割負担、利用料の負担が発生してしまいます。

千葉市在住の天海さんは2014年7月13日に満65歳を迎えました。市からは介護保険を申請するようにと何度も言われましたが、様々な思いから介護保険の申請を断りました。すると、市は8月1日から「要介護認定の申請をしなかったため、福祉サービスの支給量を算定することが出来ない」として、天海さんのすべての障害福祉サービスを打ち切り、支給申請を却下してしまったのです。そのため、全額自己負担となり月に14万円の利用料が発生してしまったのです。その後、天海さんはやむを得ず介護保険の申請をしましたが、泣き寝入りは出来ないと2015年11月に市を相手にこの処分は違法であるとし、処分の取り消しを求めるため千葉地裁に提訴しました。

2021年5月千葉地裁での判決は「自立支援給付と介護保険とを任意に選択する事を許すことは、公費負担の制度よりも社会保険を優先するという社会保障の基本的な考え方に背馳するとともに、他の者との公平にも反し相当ではない」とし、行政はこの場合に障害福祉サービスの支給申請を却下すべきである、と訴えを退けました。これに対し控訴。提訴した理由。思い。天海さんは「社会参加」の機会の確保を目的とする「障害者福祉」と、加齢に伴い生じた心身の変化に起因する要介護状態となった高齢者の日常生活を支援する「介護保険」との違いがあること、そして2010年1月7日「勝利的和解」を勝ち取った「応益負担に反対する自立支援法違憲訴訟団」と国との「基本合意文書」などの成果（応益負担制度から応能負担を勝ち取った）を無にしたいとの思いで提訴に踏み切ったのです。

2023年3月24日東京高裁での判決は「市町村は、域内の住民のための社会保障を担っており、社会保障制度を運用するについては、住民に不均衡が生じないよう配慮すべきであり、住民相互の不均衡をもたらす措置は避けることが求められる立場にある」と、移行に際し、非課税世帯でないのに利用料を負担しない者がいるのに、天海さんのような非課税世帯の者に自己負担が発生するという制度的不均衡を避ける為、障害福祉サービスの支給決定をすべきであったと全面的に天海さんの請求を了承しました。逆転勝訴です。しかし、市は上告。まだ終わりません。総合支援法7条（介護保険優先原則）が定められている事が問題ではないでしょうか。

障害があるなしに関わらずその人らしい、その人にあった生活、尊厳が守られるよう構造的に法を整備し、その人にあった制度の柔軟な運用が求められるのではないのでしょうか。

（けやき社会センター 廣瀬）



## 「ふれんず」～子どもたちの様子～



6月15日(木)県民の日、子どもたちも学校がお休みだった為、茨城県の自然博物館に行ってきました。当日は天気にも恵まれ、外で昼食を食べたり、敷地内にある大きなトランポリンで汗をかく程夢中になって遊んでいる様子が見られました。メインの館内見学では魚や動物等の展示の他に、動く恐竜が見られ「もう少し近くで見たい!」と興味を持つ子や「動いた!」と驚き職員の後ろに隠れる子等、子どもたちの様々な反応を見ることが出来ました。また室内活動として、土曜日の時間がある時には日中一時の方も一緒にプラ版を使って指輪やピン止め等のアクセサリ作りに挑戦し、完成した物を身に着けてお洒落を楽しむ姿も見られます。他に新しい活動として「アイロンビーズ」を取り入れました。所定の位置にビーズを当てはめていく工程はとて手先の細かい作業ですが、器用にピンセットを使う姿や、黙々と集中して取り組む姿を見る事が出来、また新しい一面を発見しました。

夏本番を迎え暑い日が続くことも増えてきましたが、暑さなど関係ないような子どもたちの元気な姿には毎年驚かされます。公園に行った際には水分補給と日陰での休憩を心掛け、遊びの中では水遊びを取り入れ熱中症に気を付けながら活動を楽しんでいます。今後も暑い日が続きますが体調面に気を付けて暑さに負けないよう、ふれんずでの時間を楽しくする活動をしていきたいと思ひます。

（ふれんず 松崎）



### <おおばんの夏！我孫子の夏>



本格的な暑さがやってきました！つくばね会に勤めて早20年ですが、年々増す夏の暑さに脅威を感じています。ですが毎年、夏の暑さを越えて行く一回り細く黒くなった利用者・職員の姿（特に支援校を卒業して入られた方や新人職員は一つ大人になったな…としみじみ感じます）に頼もしさを感じる大好きなシーズンです。

畑チームの作業は吐く息も熱くなるほどの暑さの中で行われています。倒れないようにこまめな給水タイムを設けていますが、働き者の皆は声をかけても休憩に手を止めようとせず、職員は「休みましょう!」「手を止めて!」と作業よりも休憩を促す声かけの方が多くなる毎日です。畑の一角にあるブルーベリーゾーンは収穫の最盛期、ジャムもパック販売も高評価のお声をいただいています。

お弁当チームも夏休みの学童弁当が開始して大忙し。先日は1日で450食近く製造する大口注文4件をこなす日もありました（皆「まだ弁当が並んでいる!いつ無くなるんだ?」と1日中作業台に並び続けた弁当に驚愕していましたね）。そのような慌ただしい日には皆のチームワークの良さにとても助けられています。今年度は近隣のお祭りの再開も相次ぎ、出店の依頼が入るようになりました。地域が活気づくのは嬉しいこと!少しでも協力できるように頑張っています。現在、おおばんには焼きそば・かき氷・焼き芋の機械がありますが、その他に綿あめや唐揚げなどの出店希望があると可能な限りお答え出来るようにしています。販売の手伝いに来られる利用者の方はお祭りににぎやかな雰囲気も大好きですので、共に販売をしながら皆の喜ぶ顔が見られるのが（あけぼの山ひまわり畑にて）とても楽しみです。

（おばん栗原）



（お





## グループホーム空～5類になったけれど・・・～

新型コロナウイルスが流行り始め4年目・・・いつ空で感染者が出るか心配しながらも、奇跡的に感染者が出ることなくここまで来ました。しかし、5類になり2ヶ月あまりで1人目の感染が確認され、帰宅できる方はご家族の協力のもと陰性確認をとり帰宅していただき、空に残られた方は陽性者と空間をわけて日常生活を送ることとなりました。

しかし、1週間経たないうちに1名の方、翌週の月曜日にはもう1名の方・・・と次々に感染が拡がり、ホームで過ごされた利用者の方は全員感染してしまいました。幸い帰宅された方は感染することはありませんでしたが、同じ建物内で空間を分けることの難しさを改めて痛感しました。

同じタイミングで太陽の利用者も1名感染し、空と太陽2つのホームで2週間程、体温や酸素濃度の計測と体調の確認を行い、通所できない期間の昼食対応、共同スペースなどや対応時の消毒の徹底、夕飯や朝食も自室で食べられるよう使い捨て容器で提供したりと、世話人や看護師の協力のもと無事乗り切る事が出来ました。世話人への感染も心配でしたが、世話人は5類以前に一足先に感染した方がほとんどであったためか、感染者がでることなく、現在はようやく元気ある日常の空の生活に戻る事ができています。

<空 竹内>

## 「 移動支援で見せるありのままの姿 」

移動支援で関わらせていただいている障がいのある方とは、生活介護事業所の中で、生活支援員と利用者という関係性になります。利用者のAさんは、作業時間に集中力が途切れると、他利用者へちょっかいを出すため、注意することもしばしば。しかし、その関係性も移動支援の中では、一日を一緒に楽しむ者同士になります。少し、私がAさんをサポートすることもあります。Aさんの方が、外出慣れしているので（私はインドア派）、私が、まごまごしていると「そうじゃない。こうだよ」と教えてくれます。ですから、移動支援での時間は、支援する側、される側ではなく、持ちつ持たれつの関係性の中で、同じ時間、同じ場所で一緒に楽しむことができるよう、心がけています。冷静沈着で、しっかり者の利用者のBさんは、事業所を長年利用されているので、何でも知っています。私がわからないことがあると、察知して「これはこうするんだよ」と教えてくれます。そんなBさん、移動支援では、事業所では見せない、明るさ、ちょっと抜けているところ、お金の使い方に男気を感じるころ等、普段見せない一面があります。Aさんにしても、Bさんにしても普段、通所時には見られない姿を拝見できるのも移動支援に関わる中で、楽しみとなっています。

その他の利用者の方とも、様々なエピソードが移動支援では生まれます。その様々なエピソードが生まれる理由の一つに、コロナ感染症が2類から5類に移行したことが挙げられます。コロナ禍での移動制限により、移動手段が、車のみだったものから、電車やバス等の利用が可能になりました。移動距離も長くなったことで、行く場所の選択肢が広がったことも大きいと言えます。

移動支援に関わる者として、利用者の安全・安心を考慮しつつ、『楽しみたい』という気持ちに寄り添いながら、共に、同じ時間を共有していきたいと思えます。



( 楓 小嶋 )



## グループホーム地球の夏、このごろ・・・

いいお知らせがあります。約1年空いていた女性部屋に新しい方が入居しました。つくばね会の事業所に通所しています。慌ただしく契約となったため、初めて泊る夜は不安、混乱から悲しい眼差しでご家族を見つめていて一緒に切ない気持ちになりました。

翌日、通所先で職員から髪をおさげに結ってもらい、いつものスタイルになると少し緊張が解けたようで、あとは普段通りに作業に入ることができほっとしています。これから地球の生活に慣れ、彼女が楽しいと感じることを支援者と一緒に見つけていければと思います。

さて、梅雨から夏にかけての地球ですが、田んぼに面しているため、ジメジメの時期はヤスデ(多足のムカデみたいな虫)が食堂、廊下に現れます。皆さん見目で苦手らしく、「ほら、あそこにいる～、何とかして」と困っているので、ホイホイをしかけたら、何匹かは退治できました。でも虫には罪はないので、うまく共存していきたいものですね。

おまけの話。夏といえばかき氷。地球にも手回しのかき氷器があります。丸い氷を作って夕食後にゴリゴリするのが楽しいひとときです。シロップは3種類あり、皆さんが好きなものを選んでいきます。他にも入居者のご親戚からスイカの差し入れや、土日の手作り夕食の日にアイスやデザートがあれば、日中の厳しい暑さも忘れられます。世話人は食べてニッコリだけでなく、夜はエアコンチェック(暖房を押している方や16度設定などさまざま・・・)や、掃除、朝食準備、ぼやきを聞くなど業務は忘れていませんので、ご安心ください。



(地球 広瀬美紀)

## 🚗 けやきバス運転手のエピソードトーク 🚗

梅雨も明け、いよいよ夏本番となりました！熱中症アラートが連日出され、熱中症により救急搬送されたニュースを目にしない日はない中で、けやきの利用者の皆さん全体の3割程（15名前後）の方が電車とけやきバスを利用して通われています。

私はバス送迎で運転手も行っていますが、バスのドアを開けての第一声は「あつっ！！まだ8時半ですけど！！」と毎日お決まりのように言い、出発します。駅ロータリーで皆さんを待っていると、額に汗を光らせながら、すでに活動した後のような表情でバスに乗り込む方もいれば、暑さなんか関係ないね！と言わんばかりに「吉田さん！おはようございます！」と元気に挨拶して下さる方もいらっしゃいます。「…なんでこんな朝から暑いのにそんなに声出るの…」と羨ましさからか嘆いている方の声が聞かれる時もありますね。

ただ、皆さんバスに乗り込むと涼しいこともあってか徐々に元気になり、「今日のテレビは？」「〇〇(職員)さんいる？」「昨日夕飯で〇〇食べたよ！」「来週から旅行だよ～。お土産買ってこようか？」等にぎやかな会話が聞かれます。本当に皆さんいつも元気で見習わなければいけないな、負けてられないなと感じています。

この暑い時期になると以前ありました車内に児童を置き去りにしてしまった痛ましい事故が思い出されます。他人事ではありません。今一度、私達職員一同徹底して同様な事故を起こすことが無いよう取り組んでまいりたいと思えます。

(けやき社会センター 吉田)